

アがオーブン

日まで記念イベントも

大船渡



開店と同時に空に放たれたハト風船。来店者や従業員の笑顔が広がった—盛町

全面改装工事が進められていた大船渡市盛町のショッピングセンター「サン・リア」が20日、リニューアルオープンを迎えた。開店から30年の節目を迎え、「まちのコミュニティー空間」として生まれ変わった店舗には初日から多くの住民らが詰めかけ、盛況ぶりをみせた。

この日は早朝から多くの住民が訪れ、開店前には正面入り口前に長蛇の列をつくった。午前9時のオープンと同時にファンファーレを響かせ、「幸せを運ぶ」とされるハト風船500羽を空に放った。一日店長を務めた岩手のローカルタレント、ふじボンさんや、市のPRキャラクター「おおふなトン」も住民らとともに記念の瞬間を喜んだ。

子育て支援センター開所

盛町のサン・リアに商業施設内では市内初

来店者は新たな装いとなった店舗内の設備などに関心を寄せながら買い物。先着500人にはこの日限りの紅白の「甘ホタテ」が配られた。1階いこいの広場ではふじボンさん司会のもと、盛保育園、猪川同の園児によるステージが繰り広げられたほか、新設備紹介、抽選会も行われた。

住田町世田米の菅野泰夫さん(80)は「ここに来れば何でもそろろ」という場所がサン・リア。改装してさらに素晴らしい施設になった。これからは買い物に来るのが楽しいと笑顔を浮かべていた。

大船渡市盛町のサン・リアがリニューアルオープンした20日、同店で子育て支援センター「すくすくルーム」の開所式が行われた。ショッピングセンター内への同支援センター設置は市内初で、子育て親子の憩いの場を提供するほか、助産師や看護師OBのスタッフが子育てに関する相談に対応する。

今回の改装は「安心・安全・快適」を重点に、エレベーターの耐震化基準適合▽子どもや高齢者にも優しいトイレの整備▽床のじゅうたんカーペット化▽駐車場照明のLED化▽無線インターネット接続環境整備などを手がけた。

総事業費は約5億円で、中小企業庁などの補助金を活用。店舗の全面的改装や配置換えも実施し、6店が新規に出店した。門田理事長は「トイレやエレベーター、空調などにこだわった。さまざまな出店者と一緒に屋根の下、手を携えてみんなが集える憩いの場としていきたい」と力を込める。

記念イベントは23日(月・祝)まで。21日は正面入り口前でキッチンカー設置のほか、午前10時にはいこいの広場で、もちつき、もち振る舞いも。22日も各種イベントを予定しており、最終日には仮面ライダージョーもある。最後に出席者でテープカットを行った。その後は早速多くの親子連れが足を運び、親子で会話を弾ませたり、幼児たちが遊び回るなどにぎやかな交流風景が広がった。

サン・リアは協同組合・南三陸ショッピングセンター(門田崇理事長)が昭和60年11月に開設。地域密着型の商業施設として親しまれ、今年で30周年を迎える。東日本大震災大津波による浸水被害は免れ、1階で食料品を

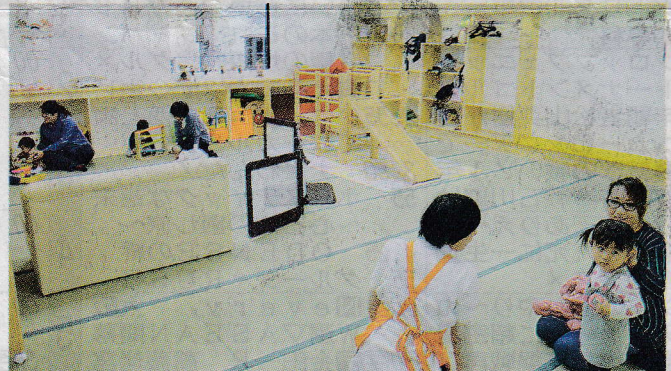
角田陽介副市長が「サン・リアさんの協力を得て開設に至った。少子高齢化が進む中、すくすくルームを利用してもらい、地域でしっかりと子育てしていくという機運醸成につなげていきたい」とあいさつ。来賓の畑中孝博市議会議長、サン・リアを運営する協同組合・南三陸ショッピングセンターの門田

「すくすくルーム」の開所式が行われた。市、サン・リア、市から運営業務委託を受けた同市の関係者が出席。

利用無料で、月曜、土曜日の午前10時〜午後4時まで開設。毎週金曜日は妊婦と1歳未満児のみ利用可。問い合わせは同ルーム(TEL 47・5689)へ。

「すくすくルーム」はこそだてシップ運営のもと、昨年7月からサン・リア内で「子育て支援室」として営業。市からの委託を受けて、サン・リアリニューアルに合わせて同支援センターとして生まれ変わった。

改装前は18平方メートルのスペースだったが、200平方メートルに拡大。未就学児とその保護者らで憩うプレイルームは約54平方メートルで、このほか、授乳室やおむつ交換室、相談室がある。



テープカットなどが行われた開所式(上)、広々としたスペースで交流を深める利用者ら(下)サン・リア